

## 研究業績等に関する事項

種別	著書、学術論文等の名称	単著 共著	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌等 または発表学会等の名称	備考
著書	1) 図解雑学オペラの名作	共	平成19年2月20日	株式会社ナツメ社	オペラの普及のための入門書として執筆 (PP. 180~185) 監修者: 小畑恒夫 共著者: 井上勢津、吉村溪他 オペラ劇場の構造と各部名称と役割。そして、その成り立ちと文化的背景について解説。
著書	2) 劇場空間への誘い	共	2010年10月25日	鹿島出版会	演劇空間と劇場デザインの歴史的系譜、実践のプロセス、都市と劇場の新たな戦略について執筆 (PP. 148~149、152、154~155) 日本建築学会編 舞台芸術に関する「人と活動を支える空間」について取材・執筆
学術論文	1) 公共文化施設の活動と今、求められる人材	共	平成15年3月	平成15~16年度 共同研究報告書 音楽芸術活動の更なる活性化を図るために、音楽芸術系高等教育機関の果たすべき役割 昭和音楽大学	平成15~16年度共同研究の研究成果報告 (PP. 56~61) 共著者: 岸本宏子、武濤京子他
学術論文	2) 高等教育機関と現場の認識に関するアンケート調査報告	共	平成15年3月	音楽芸術運営研究所紀要 No. 3 昭和音楽大学 音楽芸術運営研究所	音楽芸術系高等教育機関の果たすべき役割についての共同研究の研究結果報告 (PP. 21~33) 共著者: 岸本宏子、武濤京子他
学術論文	3) ワインヤード型コンサートホールの展開 ーミュージアム川崎シンフォニーホール第24回メサイア公演調査報告ー	単	平成16年3月	音楽芸術運営研究所紀要 No. 4 昭和音楽大学 音楽芸術運営研究所	ミュージアム川崎シンフォニーホールで行われたメサイア公演時に行った出演者による舞台上での印象の調査報告 (PP. 38~51)
学術論文	4) 国内劇場におけるオペラ利用の現状 ー舞台構成を中心とした考察ー	単	平成18年3月	オープン・リサーチ・センター整備事業研究成果報告書 海外主要オペラ劇場の現状調査、分析比較に基づく、わが国のオペラを主とした劇場団体の運営と文化・芸術振興施策のあり方の調査研究 昭和音楽大学 オペラ研究所	国内劇場が実際に、オペラ上演にどのように利用されているのかを分析比較。特に他面舞台の必要性とその是非について考察した。 (PP. 383~402)
学術論文	5) 音楽大学による社会貢献活動 1 「アーツ・イン・コミュニティ」プログラム「地域と学ぶ」活動を通じて	共	平成19年3月	音楽芸術運営研究 No. 1 昭和音楽大学 音楽芸術運営研究所	平成19年度「アーツ・イン・コミュニティ」プログラムの活動報告 (PP. 59~70) 共著者: 武濤京子、赤木舞
学術論文	6) 平成19年度活動報告 3-1「地域と学ぶ」	共	平成19年3月	「アーツ・イン・コミュニティ」プログラム 平成18・19年度活動報告書 昭和音楽大学	「アーツ・イン・コミュニティ プログラム」の活動報告 (PP. 17~23) 共著者: 武濤京子、赤木舞他
学術論文	7) 「音楽と踊りの種を撒く」プロジェクト ー瀬戸内国際芸術祭2010活動報告ー	単	平成22年3月	音楽芸術運営研究 No. 4 昭和音楽大学/ アートマネジメント研究所・音楽療法研究所	2010年夏に瀬戸内海の7つの島を会場に開かれた瀬戸内国際芸術祭に研究室として参加した活動報告 豊島を舞台に島に歌い継がれる歌と踊りを島民とともに作り、送るプロジェクト (PP. 79~90)
学術論文	8) 市民のための公共文化施設 ～3.11以降	単	平成23年3月	音楽芸術運営研究 No. 5 昭和音楽大学/ アートマネジメント研究所	平成22年3月に起こった東日本大震災は、公共文化施設（ここでは劇場）の在り方にも大きな影響を与えた。その様な社会状況の中行われた長野市民会館のコンペの審査過程を通して、今、市民のための公共文化施設にとって重要なこととは何かを考察した。
作品	1) 新宮健康増進センター P-up新宮	単	平成8年	日経B P社 日経アーキテクチャー 1996年12-2号 鹿島出版会 SD2月号 彰国社 ディティール130号	木造大断面構造を用いたスポーツ施設。 大空間を木造の大屋根で覆うことにより、環境調和を図るとともに、町のアイデンティティを表現し、町の活性化を意図している。
作品	2) 昭和学園 新体育館・杜楠苑	単	平成18年6月30日 平成18年11月1日 平成20年3月20日 平成20年6月27日	株式会社 建設ジャーナル 株式会社新建築社 新建築 81-11 日本建築学会 作品選集2008 日本建築家協会 現代日本の建築家3 優秀建築選2009	小学校のための体育館及びプール 都心の学校における地域環境との共生、及び地域連携の舞台としての学校建築の試み。ピオトープを併設する。 (日本建築学会 建築選集2008 選定 日本建築家協会 日本の建築家 優秀建築選2007 選定)
作品	3) 桜美林大学 荊冠堂	単	平成22年3月20日	日本建築学会 作品選集2010 日本建築家協会 日本の建築家優秀建築選2009選定	大学付属のチャペル 教育施設としての礼拝堂、スイス製パイプオルガンを設置し、文化、芸術の発信地としての機能を併せ持つ。
作品	4) 桜美林大学 国際寮	単	平成22年7月	日本建築家協会 優秀建築選100 現代日本の建築家 JIA建築年鑑2012	国際化時代を見据えた新しい形の学生寮と保育園の複合施設。 国籍、年代を超えた新しいコミュニケーションと文化の発信の場。